

内外装にステンレス積極採用

法人向け宿泊施設・I&O熱海

東京・八丈島や静岡県熱海市などで法人向け宿泊施設を運営するI&O and office(本社＝東京都世田谷区、須磨一清CEO)は、内外装にステンレスを積極的に採用している。耐食性に加えて、「ステンレスは建築物のアクセサリになる」(須磨CEO)など、意匠の観点からも取り入れた。同社施設を利用する、ステンレス高合金流通のイノウエ(本社＝東京都千代田区)の井上浩樹社長は「ステンレスの用途拡大につながる」と期待を寄せる。I&O and office熱海(I&O熱海)を訪ね、ステンレスを建材に取り入れる現場の声を聞いた。

【概要】

I&Oは、社外で行う会議「オフサイトミーティング」などを行う宿泊施設「オフサイト施設」を運営する。オフサイトミーティングは、職場の外で会議を行い、新たな発想や活発な議論を促すも、



屋内でも400番研磨を施している

の。2021年に「I&O八丈島」を、24年「I&O熱海」を開業した。両拠点ともに、都心から1時間程度で非常な環境を体験でき、コミュニケーションを高めるためにミーティングなどの部屋は、堅く、大企業など幅広い業種で、10人前後の研修や会議などに使われている。自然に囲まれた環境の中で会議を行い、その後はバーベキューやレジャーなどを楽しむことができる。

須磨CEOは、米コロンビア大学建築学部



修士課程を修了後、米国でホテルやレストランの建築設計に従事。15年前に日本に戻り、建築ユニット「BUS」として徳島県神山町で古民家再生やサテライトオフィスの開設など

耐食性優れ再利用も容易

地方創生に携わった。これまでの経験を基に、18年にI&O社を立ち上げた。イノウエの井上社長がI&Oを知ったのは、高校時代からの友人でもある須磨CEOからの紹介だったという。井上社長は「話をしていくうちに、I&Oと当社で

きることがあるので、これはこの思いを強くしたい」という。両社は企業や業種の垣根を越えて連携することも検討している。

【I&O熱海】

熱海駅から徒歩10分、保養所や別荘が並び相模湾を一望できる高台に立地する。木造



I&O熱海。ガラス張りですりすまの周囲の景観に溶け込む④、ステンレス

施設だ。

【外観に溶け込むステンレス】

I&O熱海は、ガラス張りなど景観を妨げないような設計が、周囲の景観に溶け込み、自然に囲まれているように感じさせる。ここにステンレスが一役買っている。テラスの手すりはステンレス(SUS304)溶接管などで構成。留め具として用いるボルト、ナットは船舶用のステンレス金具を採用。ボルト

を覆う加工は省いた。須磨CEOによると「加工は曲げだけ、ボルトで留めただけなどシンプルかつ再生可能なものにした」という。手すりの下部には細径のステンレス線材で構成されたネットを取り付けた。屋内の手すりやテーブルの脚にもステンレスを取り入れている。耐食性を高め、美観の維持につながるために、手すりなど全てのステンレスに400番研磨を施した。

「ステンレス採用の背景」ステンレスを採用するのは、沿岸が近いのにさびにくい鋼材が必要だったことに加え、塗装やめっきがなくても素地で使用できること、リサイクル性に優れるなど、再生可能な素材であることも理由の一つという。ステンレスはさまざまなメリットもある一方で、他素材に比べて比較的高価で採用をためらう例も多い。「一つの考え方(北村 康平)考え方に凝り固まることなく、もっと柔軟に考えれば、採用が広がるのではないかと須磨CEOは話す。」

【サステナブル考える場に】細部に目を凝らすと、再利用を感じさせる装飾も目立った。寝室の二段ベッドのはしごは、脚立を再利用したものだという。脚立として使われていた頃のペンキがはじに意匠を持たせている。手すりはボルトやねじでしっかりと固定されていたが、ボルト周りにカバーがないことで、取り外しが容易なように見える。ステンレスは建物の改築などで寿命を前にして役目を終えることもある。簡単に取り外せることで、リサイクルだけでなく、再利用も可能だ。多くの人がこの場所に足を運ぶことで、持続可能な社会について考え、アイデアを出し合うきっかけになりそうだ。(北村 康平)